

# グラントワ応援団通信

平成30年  
4月13日発行  
第50号

ボランティア活動に参加して

生花ボランティア

神谷須美江



暖かい春を迎えました。グラントワの桜も今は葉桜のころを迎えています。

私事ですが、昭和の時代、主人がこの地の合板工場に勤務していましたので、今の小ホールあたりに住宅があり、そこに10年間住んでおりました。工場の大きく長い煙突が無くなってさみしく思ったのですが、その後、グラントワという立派な建物が出来て、なんとかこの中でお手伝いのような事が出来ないかと思いい、生花と発送のお手伝いをさせてもらっています。

生花はメインエントランスや館内各所のトイレ、その他大ホールのホワイエ、水飲み場など季節の花を入れていきます。お花も季節によっては調達しにくい時期もあつたりして苦労もあるのですが、会員の皆さんはまるで魔法使いの様に、いつも

その日の花を抱えて持つてこられるのです。野の花を摘んで来る事もあります。それから皆さんと楽しい会話を交わすうちに、お花は大小の花瓶に入れられて館内に配達されます。何処かで可愛いお花を見つけて下さると嬉しく思います。

もう一つ大きく言わせていただきたい事があります。昨年に続いて今年も「グラントワカントリー」が開催されましたが、今回も遠い所から沢山の合唱人が来られました。その際の交流会にボランティア会の皆様から美味しく、沢山の色々なお料理を提供していただき有り難うございました。お

陰様でなごやかに楽しい時間を過ごす事ができました。これもグラントワのボランティア会の皆様の結束力の素晴らしさだと思います。これから、未長く続く会であります様に願っております

## トークの喜び

ギャラリートーク

内山京子

学芸員さんによる事前研修は興味深く、いざトークとなればお客様の気持ち、室内の雰囲気を考えても勇気が必要です。昨年11月に開催された企画展「石見の戦国武将」が閉幕した直後の展示室A「雪舟風―雲谷派を中心に」で行ったトークでの記録を紹介させていただきますと思います。

一組目は若い男女のお客様。墨絵の見た方がわからないと言われ、一緒に鑑賞させて頂きました。京都から広島、そしてグラントワに来られたそうで「益田は瓦が有名なの？瓦はどこで作っているの？」「床の素材は何ですか？」との質問を受けました。「この建物の空間がいね。カッコいい」と誉められました。島根県は好きで温泉もいいねと言われ、温泉の他、鳥取県にも寄るなど話をして下さった、とても感覚的で爽やかな感じを受けました。

2人目は松江市からの男性のお客様。中世の武将が好きで先日来たが休館日。今日は万葉集の関係で来たが企画展が閉幕した後。「でも企画展の本は買いました。」と本を手に笑っておられました

た。一緒に作品の鑑賞をしながら「益田は一つ一つの素材が良いので好きです」そして「アピールの仕方は大切」だと話して下さいました。益田に住んであたり前に思い気付かない事、改めて益田の良さを考えさせられました。

3人目は市内女性のお客様。知人の方の生花展を覗に来られたそうです。墨絵は好きで10年前に中国へ6泊する機会があり、中国での暮らし、食事、風景などを話して下さい墨絵が上手に描けるかなと思う気持ちで筆を買って帰られたそうですが、まだ使っていないと笑っておられました(私もその様な経験があるので気持ちがよくわかりました)。展示室を出られる際「ありがとうございます」と声をかけて下さり大変嬉しく思いました。作品を鑑賞しながらいろんな話が出来るとも心に残る11月の展示室Aでした。「ありがとうございます」



トークの風景 (学芸員)

## グラントワボランティア会に思う

イベントボランティア 城市恵子

今年も新年早々（一月五日～七日）グラントワカンタートが開催されました。昨年に引き続きこのビッグイベントの交流会をボランティア会イベントグループが担当させていただきまし。四百人以上の参加がある交流会、昨年の反省もふまえつつ、当日助っ人の大勢のボランティアメンバーの意識の高い働きっぷり、素晴らしい連携・結束力により大成功で終えることができました。

思えばグラントワ開館当初より、さまざまなイベントに関わってきました。懇親会・交流会・打ち上げパーティー・フェスティバル出店・きんさいデー出店などなど。そして、その中心にいつもいた人、旧石川県民文化会館時代からの職員で、平成二十七年秋に亡くなられた花田好幸さん。人との繋がりを大切にして人をもてなす、楽しんでもらう事に全力を傾ける姿勢を我々はいつも見てきました。

平成二十一年八月、子ども合唱フェスティバル、くカノラ少年少女合唱団・みずび少年少女合唱団を迎えてく

というイベントがありました。大型バス3台が長野県岡谷市を夜出発して、翌日昼頃にグラントワに到着するという行程。その事業の説明をしながら花田さんが言われたこと、「車中泊をしてはるばるグラントワに来てくださる子どもたちや先生に、着いて早々のお昼ご飯がお弁当とお茶じゃ味気ないじゃないか。歓迎の意を込めておもてなしをしたらどうだろうか。」その場にいた全員が反対するわけもなく、カノラ少年少女合唱団歓迎昼食会を大ホールホワイエでおこなう事になりました。炭火でさざえ・いか・フランクフルト・赤天などを焼き、そうめん、焼きそば、からあげ、すいかなどを用意しておもてなし・・・大変喜んでいただきました。そんな花田さんのおもてなしの精神が我々ボランティアに脈々と受け継がれていると強く感じます。

【ボランティアは一日にして成らず】ではありませんが、グラントワの歴史がボランティア会の成長の証であると思う今日この頃です。



## あ と が き

宇宙開発を通して若い人達に夢と

勇気を持ってもらおうと様々な活動をされている植松努さんをご存知でしょうか。私が参加している「思うは招こう会」では昨秋、津和野高校での植松努さんの講演会を企画し生徒の進路選択に向けてのキャリア授業の一環として開催に至り、その後も中高生に夢を持っていただけるよう活動しています

2月中旬、私は津和野中学校にお邪魔し、1年生に「キャリアアップ教育」の中で『ボランティア』についてお話ししてきました。特に生徒さんがびっくりしていたのは1月初旬の「グラントワカンタート」交流

会の準備を約半年前からしてボランティアで会場図も書き、当日の運営もすることを話したところで、生徒さんは「へえー！！！」と驚いた様子でした。

Q 私：ボランティアと聞くと面白い浮かぶのは？

A 生徒：助け合い、困っている人を助ける。災害の時に活躍する人。

Q 生徒：ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

A 私：グラントワがオープンするにあたってボランティア募集のチラシが高校に回ってきてそれを見て応募しました。

Q 生徒：活動していて面白かったこと、辛かったことはなんですか？

A 私：面白かったことは、今まで自分の知らなかった人に出会えているんな考え方・やり方を教わりました。辛かったことは、会が終わるのが夜遅くなる事があるので時々疲れます

(笑)・・・  
こういった交流を通じて何年後かには共に活動する時が来ることを願っております。

また、3月中旬には日原中学校でもお話をする機会を持ってました。

(中川和彦)